

第6回 「科学の目で見える漢方薬の作用～太古の薬物に含まれる最新の作用機序」

日時	2026年11月7日（土） 15時00分～16時30分
講師	磯濱 洋一郎 教授 東京理科大学 薬学部 薬学科
講義概要	<p>漢方薬は、その大半が約1800年前の書物に記されたものが、現在まで利用されています。しかし、病気に対する東洋医学の古典的診断や漢方薬の処方選択は現在の医学的なものとは全く異なっており、現代医療の中で効果的かつ安全に漢方薬を利用するためには、これらを科学的に解明することが大切です。そのような観点から、近年、漢方薬の作用機序に関する科学的なアプローチがなされていますが、中にはがんの免疫療法と類似のものなど、西洋医学の最先端の治療法にも通じる優れた概念が含まれていることがわかってきました。本講座では、それら漢方薬のユニークな作用の特徴や作用機序について、わかりやすく解説します。</p>
参考図書	